



オアシス

文責：学 長
桑 原 雅 次

出雲芸術アカデミーだより 2024年7月23日発行 第73号

今月初旬、20年ぶりに新しい紙幣が発行されました。昨日(7/17)新紙幣の1万円札、渋沢栄一さんに初めてお会いできました。早速、義父から受け継いだ紙幣コレクションのストックフォルダーに過去の紙幣との仲間入りとなりました。後は、津田梅子さんと北里柴三郎さんとの出会いがいつになるか楽しみです。

先日、出雲フィルハーモニー交響楽団(以下出雲フィル)による第26回定期演奏会が開催され、出雲市民会館の座席数が1088席のところ、それを上回る1158人の来場者により、大盛況のうちに終えることができました。関係者の皆様にはチケット販売を積極的に行っていただきありがとうございました。満席で行うコンサートは、演奏者も一段と気持ちが入り、言葉では言い尽くせない素晴らしい演奏であったことは言うまでもありません…！今回のコンサートを通して観客の皆さんは、今後の出雲フィルの演奏にますます期待が高まり、演奏者自身も一段とレベルの高い演奏を目指そうとする相乗効果が、ここ「音楽のまち出雲」をさらに活性化できるものと確信いたしました。

コンサートを成功させるために！

第26回定期演奏会は大盛況でした。コンサートを成功裏に導くためには、様々なアプローチが必要となります。コンサートの構想は、およそ1年前から中井芸術監督を中心に音楽スタッフと練り上げられ、予算要望から始まります。予算要望が通れば実際のコンサートの内容に即した編成やキャストが設定され、楽譜も準備しそれぞれの立場の人が個々に練習を開始します。ここまででも相当な事務量ですが、本番直前まで打ち合わせや連絡を繰り返すことになります。今回の定期演奏会には、およそ3週間にわたりゲスト・コンサートマスターが滞在され、出雲フィルや出雲芸術アカデミー(以下アカデミー)の各講座にもかかわっていただき、私たちの演奏レベル向上に貢献してくださいました。また、出雲フィルのコンサートには、指揮者並びに芸術監督の中井さんの存在が絶対です。コンサート成功のキーワードとなっているその様子について、私が感じた振り返りをしてみたいと思います。

◆指揮者の役割

指揮者が変われば音楽も音色も変わってしまうほどコンサートを開催するには最も重要なポストといってもよいと思います。出雲フィルは、プロ奏者や愛好家、ジュニアと立場の違う奏者が集う市民オーケストラです。その為、コンサートだけの指揮者では、出雲フィルは成立しません。普段からアカデミーの講座を通してきめ細かな指導なくしては、愛好家やジュニアには大きな負担となってしまいます。その点からも指揮者中井さんは、アカデミーの講座運営にも積極的にかかわっていただき、わかりやすい説明に加え音楽の

次ページへ

楽しさを存分に伝えてくれています。演奏に関しては、アナリーゼを徹底され、私の隣の席で休憩時間も惜しんで黙々と分析されている姿をよく目にします。市民オーケストラならではの苦勞と思われます。リハーサルからゲネプロ、本番とすべて視聴させていただきましたが、指揮者のみならず芸術監督としての全体把握、舞台監督としての配置転換や照明に至るまで徹底したプロデュースが観客を楽しませ、感動まで呼び込むコンサートにつながっていることを感じました。

◆コンサートマスターの力

コンサートマスターは単なる演奏者の一員ではなく、指揮者の考えを確認しながら他の団員に的確に伝えることも重要な役割です。ゲスト・コンサートマスターの高畑さんは、リハーサル中からたくさん声がけをいただきました。それもユーモアを交えながら伝える所作は、長年ドイツのオーケストラで培われたある種の高等なコミュニケーション力と思われます。誰も傷つけず、しかも演奏は格段に向上するという驚きさえ感じられました。特に印象的だったのは、指揮者の振り下ろしに素早く反応するのではなく、ためがあり趣のある発音が観客を魅了する音楽につながることを体現されていました。その後の弓の動きがうねるように全体が躍動して行くのを目の当たりにし、オーケストラならではの醍醐味を感じさせていただきました。

今回の滞在期間中には、多くのミニコンサート(サロンコンサート、ロビーコンサート、ライブコンサート)も行っており、音楽の楽しさと気軽に聴けるコンサートを通じて出雲市民の皆様に向けて音楽の魅力を大いに発信していただきました。

フォトギャラリー



【このたよりは、本アカデミーホームページでも掲載します <https://www.izumo-zaidan.jp/academy/>】